

伊勢湾西岸域における弥生時代底部穿孔土器の出土傾向

萩原 義彦

1 はじめに

山村遺跡⁽¹⁾は、三重県四日市市山村町字西平子・西谷に所在する遺跡である。遺跡の位置は、南側に朝明川が伊勢湾に向かって東流しており、その北岸に広がる朝明丘陵から派生する尾根部分である。発掘調査は、平成10・11年度の2次にわたって実施している。その結果、第1次調査では、弥生時代中期の方形周溝墓1基、筆者が発掘調査を担当した第2次調査では、弥生時代中期中葉から後葉に位置づけられる方形周溝墓19基を確認している。第2次調査の方形周溝墓は列状配置の構成を示し、弥生土器も出土している。

方形周溝墓の周溝から出土した土器は、各墳墓に供献されていたとみられ、周溝へ転落した状態で埋没している。なかでも1点であるが、9号墓の南側周溝から出土した壺（報告書番号18）は、焼成前に底部に穿孔がなされた土器である。本稿では、こうした底部穿孔土器⁽²⁾について、分類し、三重県内の出土傾向についてみていきたい⁽³⁾。

2 底部穿孔土器の穿孔の分類

最初に穿孔部の調整によって4つに分けたい。焼成前に穿孔されて丁寧にナデ調整されたものが1類、焼成前に穿孔されてそのままのものが2類、焼成後穿孔されたもので丁寧に研磨されたものが3類、焼成後穿孔されたままのものを4類とする。（写真1～4）（第1図）

3 底部穿孔土器の出土例について

出土例は、県内38遺跡で175点（第2・3表）の出土が確認される。これらについて、地域別⁽⁴⁾及び時期、出土遺構別について、主な遺跡を挙げて、全体の出土傾向をみていきたい。

（1）北勢地域

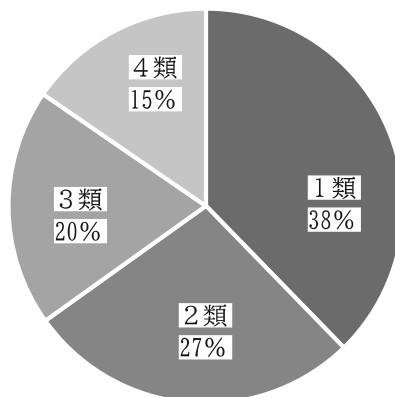
北勢地域の総出土点数は、56点である。四日市

市に所在する菟上遺跡⁽⁵⁾が27点と圧倒的に多い。当遺跡では、器種別でみると甕が8点、台付甕が6点、平底甕が13点である。これらの甕は、焼成後穿孔されたもので、丁寧に研磨されたものや焼成後に穿孔されたものを含む。しかし、2類は確認できない。出土遺構は、弥生時代中期の堅穴建物から1点、後期の方形周溝墓が2点、中期後半の谷地形からが24点である。

次いで、同市に所在する居林遺跡・北山城跡⁽⁶⁾では、8点出土している。1点を除き、鉢である。焼成前に穿孔されたものから焼成後に穿孔されたものを全て含む。出土遺構は、包含層が1点で、他は弥生時代後期以降の堅穴建物からである。

また、同市に所在する広永遺跡⁽⁷⁾では、広口壺1点出土している。底部に穿孔があるほか、土器の体部に赤彩が施されている。穿孔は、焼成後に穿孔し、そのままの状態である。4類に属す。出土遺構は、弥生時代終末期から古墳時代初頭の方形周溝墓である。

鈴鹿市に所在する大木ノ輪遺跡⁽⁸⁾では、5点出土している。器種は甕が4点、壺が1点である。焼成後に穿孔されたものが多い。出土遺構は、弥生時代前期の土坑から甕1点、包含層から壺が1点、弥生時代末から古墳時代初頭の土坑から甕が1点、溝から甕が1点、古墳時代前期の包含層から甕が1点



第1図 底部穿孔土器の分類割合

第2図 分類写真



1類（焼成前穿孔＋ナデ調整）



3類（焼成後穿孔＋ナデ調整）



2類（焼成前穿孔）

出土している。弥生時代前期にも底部に穿孔のある壺が存在している。壺は、穿孔を焼成後行い、そのままの状態である。4類に属す。

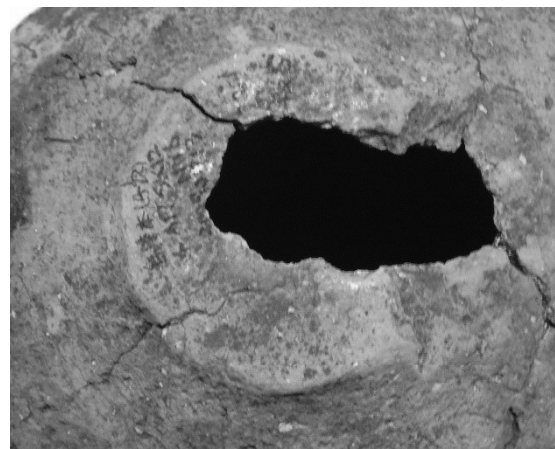
（2）中勢地域

中勢地域の総出土点数は、59点である。津市に所在する六大A遺跡⁽⁹⁾では、15点出土している。器種は、多様な鉢が11点、甕が2点、壺が2点である。出土遺構は、谷地形の大溝である。焼成前に穿孔されたものが多く占めている。

同市に所在する替田遺跡⁽¹⁰⁾では、17点出土している。器種は、全点甕である。甕は、焼成前に穿孔されたものから焼成後に穿孔されたもので、2類は、含んでいない。出土遺構は、弥生時代中期中葉の溝状土坑・包含層・ピットである。

同市に所在する納所遺跡⁽¹¹⁾では、3点出土している。器種は、甕が3点である。1類と3類がある。出土遺構は、弥生時代前期の土坑・弥生時代中期の土坑・溝からである。

（3）南勢地域



4類（焼成後穿孔）

南勢地域の総出土点数は、54点である。松阪市に所在する中ノ庄遺跡⁽¹²⁾では、2点出土している。器種は、壺と甕がそれぞれ1点である。前者が4類、後者が1類である。出土遺構は、弥生時代前期の溝からである。

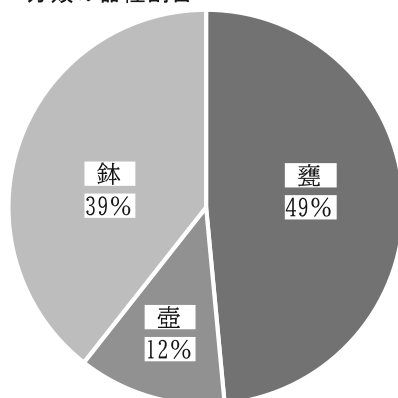
同市に所在する天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群⁽¹³⁾では、4点出土している。器種は甕3点、壺1点である。壺は体部にも穿孔がなされている。出土遺構は、弥生時代前期及び後期の土坑や包含層からである。

同市に所在する阿形遺跡⁽¹⁴⁾では、10点出土している。器種は全て鉢であり、2類が大半を占めている。出土遺構は、全点弥生時代後期の環濠である。

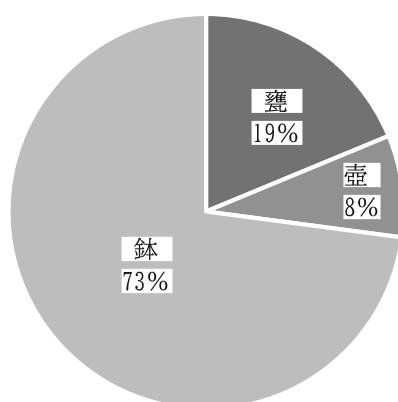
同市に所在する村竹コノ遺跡⁽¹⁵⁾では、総数22点出土している。器種は、鉢が13点、甕が3点、壺が6点である。1類から4類までバラエティーに富んだ構成である。出土遺構は、弥生時代後期から古墳時代初頭の環濠、井戸、土坑からである。

多気郡明和町に所在する寺垣内遺跡⁽¹⁶⁾では、2

第3図 分類の器種割合



1 類の器種割合



2 類の器種割合

点出土している。器種は、鉢と甕が1点ずつである。前者が1類、後者が2類である。出土遺構は、弥生時代後期後半の方形周溝墓である。

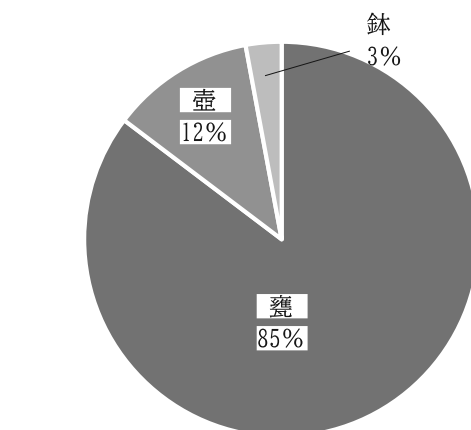
同町に所在する金剛坂遺跡⁽¹⁷⁾では、5点出土している。器種は、全て甕である。2、3、4類に分かれる。出土遺構は、弥生時代前期の竪穴建物、古墳の周溝（全点混入と考えられる）からである。

（4）伊賀地域

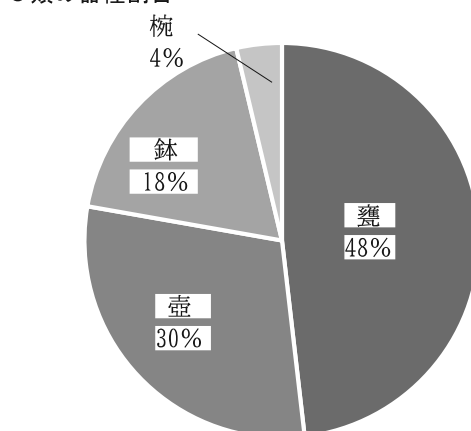
伊賀地域の総出土点数は、6点である。伊賀市に所在する印代東方遺跡群⁽¹⁸⁾では、1点出土している。器種は甕で、1類である。出土遺構は、弥生時代後期の竪穴建物である。

同市に所在する北切遺跡⁽¹⁹⁾では、1点出土している。器種は壺で、3類である。出土遺構は、弥生時代中期中葉から後葉の方形周溝墓である。

名張市に所在する観音寺遺跡⁽²⁰⁾では、2点出土している。器種は2点とも鉢で、2類である。出土遺構は、弥生時代後期の竪穴建物と方形周溝墓である。



3 類の器種割合



4 類の器種割合

（5）底部及び体部穿孔土器について

次に底部及び体部の両方に穿孔がなされているものについてもみておきたい。出土点数は4点だけである。上記した六大A遺跡で2点出土している。器種は甕と鉢が1点で、それぞれ1、2類である。出土遺構は、谷地形の大溝からである。

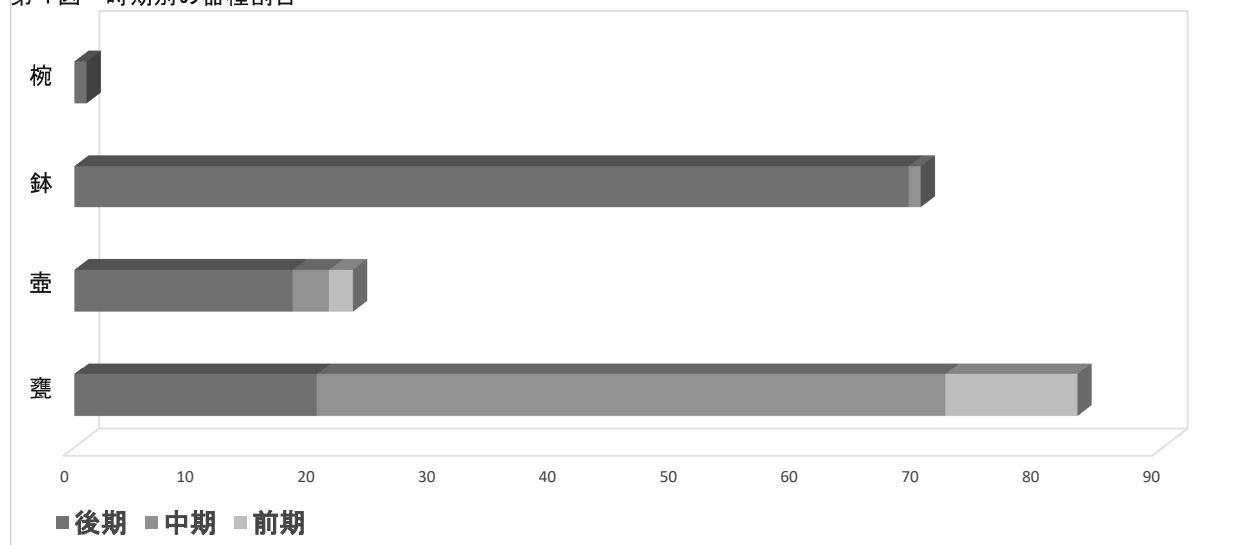
同じく天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群からは、1点出土している。器種は壺で、4類である。出土遺構は、弥生時代後期前半の方形周溝墓からである。

北切遺跡からは、1点出土している。器種は壺で、4類である。出土遺構は、弥生時代中期中葉から後葉の方形周溝墓である。

（6）小結

底部穿孔の調整の有無から1～4類に分類を試みた。グラフから各器種の割合状況を見ると、鉢は、成前に穿孔されることが高い傾向がある。甕は、やや焼成後穿孔の割合が高い傾向がある。壺は、全体的に両方の傾向を示している。

第4図 時期別の器種割合



4 時期からみた器種の傾向

(1) 弥生時代前期

県内でも限られた遺跡でしか認められない。大木ノ輪遺跡の甕が1点、壺が1点、納所遺跡の甕が1点、中ノ庄遺跡の壺が1点、甕が1点、天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群の甕が2点、金剛坂遺跡の甕が4点を確認することができる。

前期の特徴としては、甕が主体を占め、壺がわずかに確認されている。

(2) 弥生時代中期

中期では、前葉のものが少なく、大半は、中葉以降のことが多い。前葉では、中勢地域の替田遺跡の甕が4点、雲出島貫遺跡⁽²¹⁾の甕が1点を確認する程度である。

中葉以降では、北勢地域の菟上遺跡の甕が25点で、中勢地域では、替田遺跡の甕が12点である。南勢地域では、現在のところ未確認である。伊賀地域では、北切遺跡の壺が1点だけである。また、この時期で底部に穿孔があるだけでなく体部にも穿孔が施される壺は、北切遺跡に限られる。

中期の特徴は、前期に引き続いて甕が主体を占め、壺もわずかに存在して、鉢が現れるようである。

(3) 弥生時代後期から古墳時代初頭

出土している土器の時期は、後期後半から終末期ないし古墳時代初頭に集中している。総点数は、前期や中期と比較しても多くなる。

菟上遺跡では、甕が2点出土している。四日市市

小牧町に所在する小牧南遺跡⁽²²⁾では、碗形が1点と鉢が5点出土している。碗形は搬入品もしくは模倣品とみられる。阿形遺跡も全点、鉢である。

後期の傾向は、甕の割合が減少し、鉢が主体を占める。壺も増加傾向を示している。

(4) 小結

前期の器種の内訳は、甕が多い。また、壺の底部に穿孔することは、壺の機能を考える上で、不必要であると考えられ、貯蔵容器としての機能を完全に喪失している。なかでも、大木ノ輪遺跡と中ノ庄遺跡だけで出土している点は、重要とみられる。そして、2点とも底部を穿孔後に調整がなされていない。

中期は、前葉の出土例が少ないものの前期に引き続いて甕の点数が多い。その一方で、中期後半には、鉢とみられる器種も現れる。壺の出土例は、北切遺跡だけである。

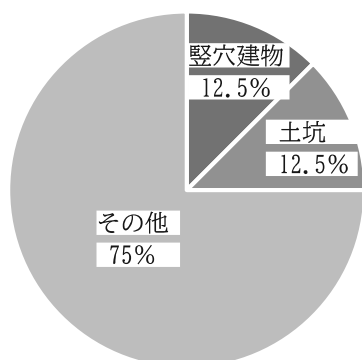
後期においては、甕の割合が減少することが確認され、圧倒的に鉢が増え、食生活の何らかの変化を示しているのではなかろうか。壺の底部穿孔は、前期や中期と比較して、増加傾向が窺える。(第4図)

5 出土遺構からみた器種の傾向

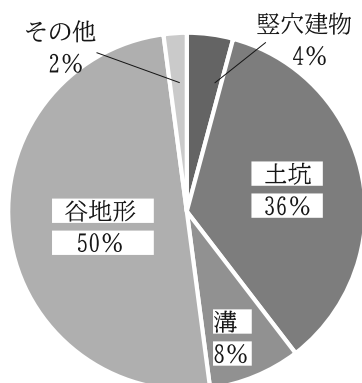
(1) 竪穴建物

竪穴建物から出土したものは、総数21点である。前期では金剛坂遺跡の甕が1点、中期では菟上・雲出島貫遺跡の甕が2点、後期以降では城ノ谷遺跡⁽²³⁾の甕が1点、西ヶ広⁽²⁴⁾・印代東方・上東野遺跡⁽²⁵⁾の甕が3点、居林遺跡・小牧南・観音寺遺跡の鉢が

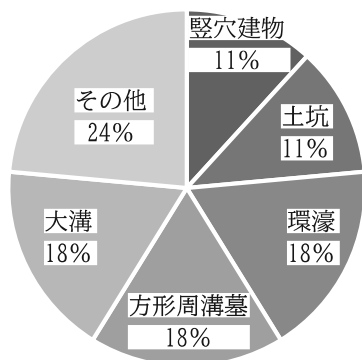
第5図 器種・時期別出土遺構割合



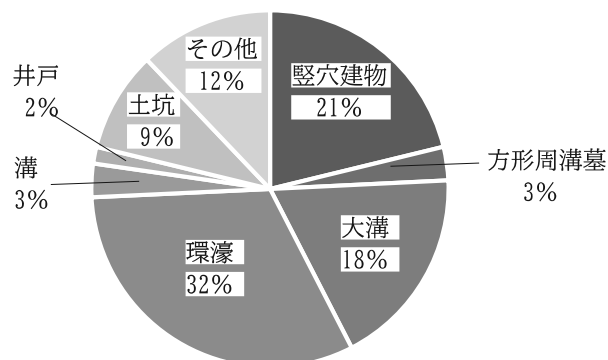
前期の甕の出土遺構割合



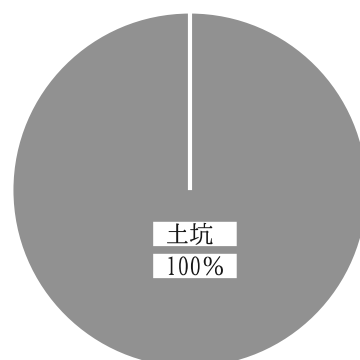
中期の甕の出土遺構割合



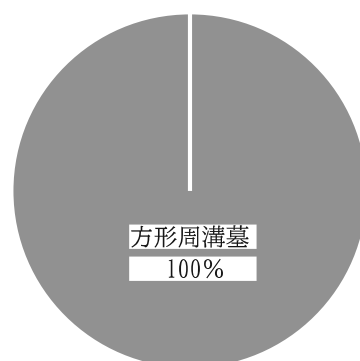
後期の甕の出土遺構割合



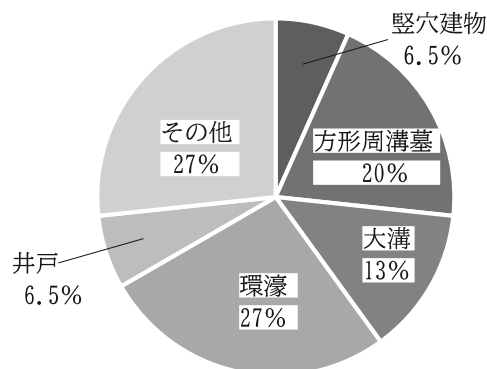
後期の鉢の出土遺構割合



前期の壺の出土遺構割合



中期の壺の出土遺構割合



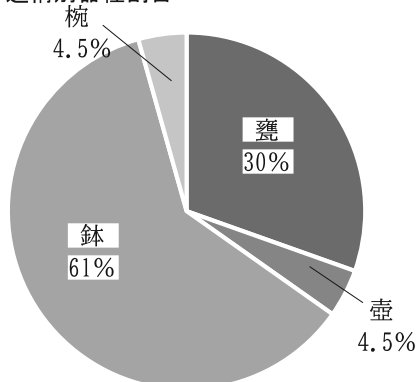
後期の壺の出土遺構割合

13点・小牧南遺跡の埴形が1点、北野遺跡⁽²⁶⁾の壺が1点である。この壺は、体部下半部のみの残存で焼成後に10箇所の貫通孔を持つ。多孔のものは、六大A遺跡や阿形遺跡など数例である。

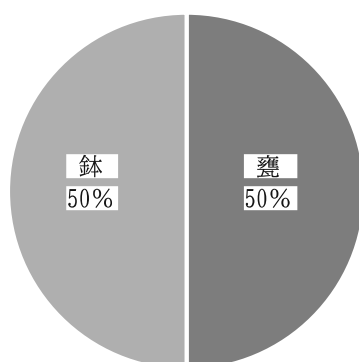
(2) 方形周溝墓

方形周溝墓から出土したものは、総数12点である。前期での出土例はない。中期では山村・北切遺跡の壺が3点、後期以降では菟上遺跡の甕が2点、広永・山村・雲出島貫・小谷赤坂遺跡の壺が4点、寺垣内・観音寺遺跡の鉢が2点、寺垣内遺跡の甕が1点である。

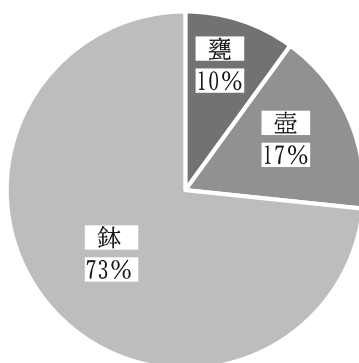
第6図 遺構別器種割合



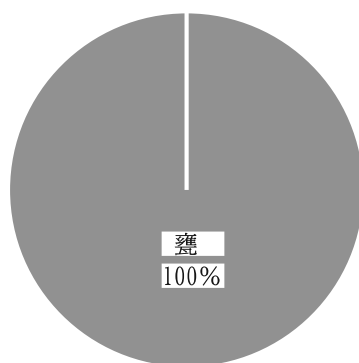
竪穴建物の器種割合



井戸の器種割合

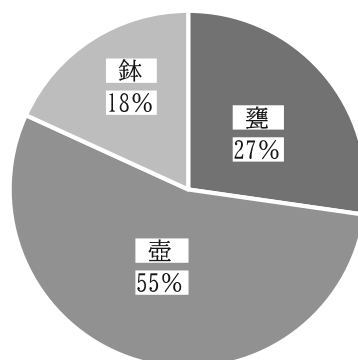


環濠の器種割合

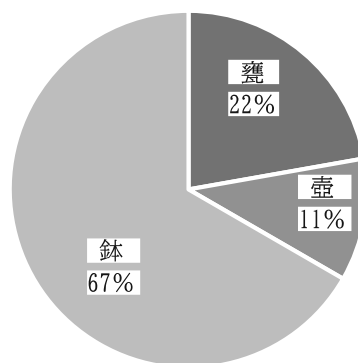


谷地形の器種割合

方形周溝墓の器種割合



土坑の器種割合



大溝などの器種割合

(3) 井戸

井戸から出土したものは、2点だけである。村竹コノ遺跡の壺が1点、鉢が1点である。

(4) 土坑

土坑から出土したものは、総数28点である。前期では、大木ノ輪・納所遺跡の甕が2点、小谷赤坂遺跡の甕が1点である。中期では、納所・鳥居本遺跡の甕と鉢が2点、替田遺跡の甕が14点、鳥居本遺跡⁽²⁷⁾の鉢が1点である。後期以降では、大木ノ輪・堀町遺跡⁽²⁸⁾の甕が2点、貝塚⁽²⁹⁾・堀町・村竹コノ遺跡の鉢が5点、小谷赤坂遺跡の甕が1点である。

（５）環濠

環濠から出土したものは、総数 30 点である。前期から中期にかけての出土例はない状況である。後期以降は、里前⁽³⁰⁾・阿形・村竹コノ遺跡の鉢が 22 点、村竹コノ遺跡の甕が 3 点、同遺跡の壺が 5 点である。

（６）大溝・溝・旧河道・流路

大溝などから出土したものは、総数 32 点である。前期では、中ノ庄遺跡の甕が 1 点である。中期では、納所遺跡の甕が 1 点、式ノ坪遺跡⁽³¹⁾の甕が 3 点、後期以降では、大木ノ輪遺跡の甕が 1 点、橋垣内⁽³²⁾・六大 A・里前・神部⁽³³⁾・林垣内遺跡⁽³⁴⁾で鉢が計 20 点、六大 A 遺跡の壺が 2 点、同遺跡の甕が 3 点である。

（７）谷地形

谷地形から出土したものは、全て菟上遺跡で弥生時代中期後半の甕が 24 点である。

（８）小結

器種及び出土遺構の傾向から底部穿孔土器の様相について、グラフ化した。出土点数からみると環濠が多く一番多く、土坑、谷地形、堅穴建物、方形周溝墓の順で続く。出土例からみると、器種はトータル点数の多い甕・鉢を主体としていることがわかる。方形周溝墓では、中期においては、壺を主体としている。

6 まとめ

底部穿孔土器について、時期や出土遺構、あるいは器種別でみてきた。次にそれらの傾向から窺えることについてまとめる。

底部穿孔土器は、点数のうえでは甕と鉢の器種が圧倒的に多い。鉢は本来、取り分け用の器種と考えられているが、底部に穿孔を施すのは、何らかの食物加工における変化が生じたものと考えられる。したがって、出土遺構は、堅穴建物や環濠に使用後に廃棄されたと考えられる。

土坑の場合は、土器を廃棄した土坑あるいは土坑墓の可能性も考えられる。

また、壺は方形周溝墓、井戸、環濠、大溝といった墳墓や祭祀に関わるような遺構から出土しているものが多い傾向を示す。

方形周溝墓からの出土例に絞ってしてみると、出

土点数の半数以上が壺である。そして、壺の出土例の分布状況からみると中期では、伊賀から北勢地域にかけてみられ、中期後半以降になると中勢地域にも広がる。しかしながら、方形周溝墓の確認例に比して⁽³⁵⁾、壺は、伊勢湾岸西岸域においては少数である状況を示している。しかしながら、弥生時代終末期～古墳時代前期にかけての方形周溝墓や古墳の墳丘上に囲うように置かれることを踏まえると、大きな変化が、この時期にあったとみられる。

（はぎわら よしひこ

三重県埋蔵文化財センター 調査研究 1 課）

註

（１）三重県埋蔵文化財センター 2004「山村遺跡（第 2 次）発掘調査報告」、同 2002「金塚遺跡・金塚横穴墓群・山村遺跡発掘調査報告」

（２）本稿では、弥生時代に重点を置き、二重口縁壺については、ここでの事例に含めないことにしている。

（３）三重県の地域を大きく北勢・中勢・南勢・伊賀の 4 地域に分けておきたい。伊賀地域は、伊勢湾岸西岸域から外れて近畿地域とみなすことが多いが、県内の参考事例や伊勢湾西岸域との関連性を考える上で必要と考えて含めている。

（４）先行研究としては以下の文献がある。

勝部明生 1976「穿孔土器の考察―船橋遺跡出土例を中心として―」『横田健一先生還暦記念日本史論叢』、69-92 頁

駒見佳見子 1985「葬送祭祀の一検討」『土曜考古』10（土曜考古学研究会）、27-40 頁

佐原真 1996『食の考古学』東京大学出版会、82-103 頁

田中清美 1988「弥生時代前・中期における穿孔・打ち欠きのみられる土器について」『考古学論集』第 2 集（考古学を学ぶ会）、35-50 頁

藤波啓容・中村真理 1996「方形周溝墓と底部穿孔土器―葬送儀礼の在り方を中心として―」『東京考古』14（東京考古談話会）、59-94 頁

古屋紀之 2008「弥生墳丘墓の破砕・穿孔土器と葬送儀礼―研究史の整理と実験の試み―」『地域と文化の考古学Ⅱ』、459-474 頁

田中大輔 2010「穿孔土器に関する素描」『國學院大學学術資料館考古学資料館紀要』第 26 輯、145-181 頁

桐井理揮・菅博絵・岡村美知子 2018「弥生時代後期における有孔鉢の検討」『京都府埋蔵文化財情報』第 133 号、1-10 頁

（５）同 2005「菟上遺跡」、110・123・134・149・167 頁

（６）同 2022「居林遺跡・北山城跡（第 2 ～ 4 次）」、241・265・300・310・323・338 頁

（７）同 2006「広永横穴墓群・広永 1 号墳・広永城跡・広永遺跡発掘調査報告」、42 頁

（８）同 2008「大木ノ輪遺跡発掘調査報告」、54・56・58 頁

（９）同 2002「六大 A 遺跡」、110・114・119・120・125・127・128・130・131 頁

（10）同 2008「替田遺跡（第 1・2 次）発掘調査報告」（三重県

埋蔵文化財調査報告 115－15)、40・42-45・47・48・57・101 頁、
同 2007「替田遺跡（第 5 次～第 8 次）発掘調査報告」、49・85・
86 頁

(11) 三重県教育委員会 1980「納所遺跡―遺構と遺物―」同 2012
「納所遺跡Ⅰ―遺構・土器・木製品編―」、72・81・103 頁

(12) 三重県教育委員会 1972「中ノ庄遺跡発掘調査報告」、7 頁

(13) 同 2005「天花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群（第 8 次）
天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告Ⅶ」、36-37 頁、同 2005「天
花寺城跡・小谷赤坂遺跡・小谷古墳群（第 6・7 次）天花寺丘陵
内遺跡群発掘調査報告Ⅵ」、26 頁

(14) 同 1992「ヒタキ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか」、96・
102・115 頁

(15) 同 2009「村竹コノ遺跡」、104・106・131・147・160・166・
174・185・190・211・216・218 頁

(16) 同 2006「織糸遺跡」、70・72 頁、同報告書内に寺垣内遺跡
の遺構・遺物が掲載されている。

(17) 同 1999「金剛坂遺跡（第 4 次）・辰ノロ古墳群（第 2 次）
発掘調査報告」、23・34・37 頁

(18) 同 1992「伊賀国府跡（第 4 次）」、13 頁、報告書名は、伊賀
国府であるが、のちに印代東方遺跡群として遺跡の名称を変更し
ている。

(19) 三重県教育委員会 1984「北切遺跡」『昭和 58 年度農業基盤
整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』、121 頁

(20) 三重県教育委員会 1985「観音寺遺跡」『昭和 59 年度農業基
盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』、154-155 頁

(21) 同 1998「嶋拔第 1 次調査」、50・60 頁、同 2001「嶋拔Ⅲ」、
65・67 頁

(22) 同 2021「小牧南遺跡（第 2・3 次）」、238・241・249・

第 1 表 底部穿孔土器一覧表

番号	遺跡名	所在地	器種	分類	報告書 番号	報告書 器種	出土遺構	時期	計測値			備考
									口径	器高	その他	
1	城ノ谷遺跡	三重郡朝日町 埋縄	甕	1	36	甕	堅穴建物 (SH4)	弥生時代後期後半	—	—	4.4	底部穿孔
2	西ヶ広遺跡 (第 3・4 次)	四日市市 伊坂町	甕	2	5	甕	堅穴建物 (SH3002)	弥生時代後期後半	—	—	5	底部穿孔
3	広永遺跡	四日市市 伊坂町	壺	3	75	広口壺	方形周溝墓 (SX3)	古墳時代初頭	—	—	7.5	底部焼成後穿孔・赤 彩
4	菟上遺跡	四日市市 伊坂町	甕	1	29	甕	堅穴建物 (SH9)	弥生時代中期	—	—	4.6	底部穿孔
5			甕	3	348	甕	方形周溝墓 (SX536)	弥生時代後期	—	—	7.4	底部穿孔
6			甕	3	349	甕	方形周溝墓 (SX536)	弥生時代後期	—	—	5	底部穿孔
7			甕	3	537	甕	谷地形 (ST801)	弥生時代中期後半	—	—	4.3	底部焼成後穿孔
8			甕	3	538	甕	谷地形 (ST801)	弥生時代中期後半	—	—	5.4	底部焼成後穿孔
9			甕	3	924	平底甕	谷地形 (ST801)	弥生時代中期後半	—	—	6	底部焼成後穿孔
10			甕	3	925	平底甕	谷地形 (ST801)	弥生時代中期後半	—	—	5.1	底部焼成後穿孔
11			甕	3	926	平底甕	谷地形 (ST801)	弥生時代中期後半	—	—	5.5	底部焼成後穿孔
12			甕	3	927	平底甕	谷地形 (ST801)	弥生時代中期後半	—	—	6	底部焼成後穿孔
13			甕	3	928	平底甕	谷地形 (ST801)	弥生時代中期後半	—	—	5.1	底部焼成後穿孔
14			甕	3	929	平底甕	谷地形 (ST801)	弥生時代中期後半	—	—	5.5	底部焼成後穿孔

274・277 頁

(23) 同 2004「城ノ谷遺跡発掘調査報告」、17 頁

(24) 同 2006「西ヶ広遺跡（第 3・4 次）発掘調査報告」、9 頁

(25) 三重県教育委員会 1983「上東野遺跡」『昭和 57 年度農業基
盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』、127 頁

(26) 同 1995「北野遺跡（第 2・3・4 次）発掘調査報告」、77 頁

(27) 同 1991「鳥居本遺跡」『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵
文化財発掘調査報告』、48 頁、甕の底部の可能性が高い。同 2011
「鳥居本遺跡（第 4 次）発掘調査報告」、11 頁

(28) 同 2000「堀町遺跡」、89・99・116 頁

(29) 三重県教育委員会 1976「貝塚遺跡」『昭和 51 年度県営圃場
整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』、8－9 頁

(30) 同 2005「里前遺跡（第 2 次）発掘調査報告」、11・13 頁

(31) 同 2005「式ノ坪遺跡発掘調査報告」、26・27・29 頁

(32) 同 1995「橋垣内遺跡発掘調査報告」、46・59 頁

(33) 三重県教育委員会 1981「神部遺跡」『昭和 55 年度農業基盤
整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』、187 頁

(34) 同 2012「林垣内遺跡発掘調査報告」、24・36・44 頁、この溝は、
環濠と考えられている。

(35) 註（1）の山村遺跡（第 2 次）発掘調査報告において三重
県内方形周溝墓の一覧表を参照されたい。2004 年までの集成で
ある。

参考文献

同 2023「戸関遺跡発掘調査報告」、44 頁

同 2023「深田古墳群 深田遺跡（第 2・3 次） 双ツ塚西方遺跡
中島遺跡 双ツ塚遺跡（第 3 次） 金沢川遺跡（第 1・2 次）発
掘調査報告」、60・140・154・156 頁

15	菟上遺跡	四日市市 伊坂町	甕	3	930	平底甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	5.1	底部焼成後穿孔
16			甕	4	931	平底甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	5.9	底部焼成後穿孔
17			甕	3	932	平底甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	5.2	底部焼成後穿孔
18			甕	3	933	平底甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	5	底部焼成後穿孔
19			甕	4	934	平底甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	4.4	底部焼成後穿孔
20			甕	3	935	平底甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	4.5	底部焼成後穿孔
21			甕	3	936	平底甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	5.2	底部焼成後穿孔
22			甕	3	937	台付甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	6.4	底部穿孔
23			甕	3	941	台付甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	8.1	底部穿孔
24			甕	3	942	台付甕	谷地形 (S T801)	弥生時代中期後半	—	—	6	底部穿孔
25			甕	3	1301	台付甕	谷地形 (S T802)	弥生時代中期後半	—	—	4.8	底部焼成後穿孔
26			甕	3	1302	甕	谷地形 (S T802)	弥生時代中期後半	—	—	5.1	底部焼成後穿孔
27			甕	3	1303	甕	谷地形 (S T802)	弥生時代中期後半	—	—	6.2	底部焼成後穿孔
28			甕	3	1304	甕	谷地形 (S T802)	弥生時代中期後半	—	—	5.9	底部焼成後穿孔
29			甕	3	1305	台付甕	谷地形 (S T802)	弥生時代中期後半	—	—	5.4	底部焼成後穿孔
30			甕	3	1306	台付甕	谷地形 (S T802)	弥生時代中期後半	—	—	5.8	底部焼成後穿孔
31	山村遺跡 (第2次)	四日市市山村町 字西谷・西平古	壺	1	18	壺	方形周溝墓 (S D145 (9 号墓))	弥生時代中期中葉 ～後葉	—	—	6.1	底部穿孔
32	居林遺跡・ 北山城跡 (第2～4次)	四日市市 北山町	壺	3	532	有孔鉢	堅穴建物 (S H228)	弥生時代終末期	—	—	5.5	底部穿孔
33			鉢	2	533	有孔鉢	堅穴建物 (S H228)	弥生時代終末期	—	—	3.6	底部穿孔
34			鉢	1	534	有孔鉢	堅穴建物 (S H228)	弥生時代終末期	—	—	4	底部穿孔
35			鉢	4	939	有孔鉢	堅穴建物 (S H323)	弥生時代後期後葉	—	—	4	底部穿孔
36			鉢	1	1679	有孔鉢	堅穴建物 (S H459)	弥生時代後期後葉 ～終末期	—	—	5.2	底部穿孔
37			鉢	2	1895	有孔鉢	堅穴建物 (S H476)	弥生時代終末期～ 古墳時代前期初頭	—	—	5	底部穿孔
38			鉢	2	2153	有孔鉢	堅穴建物 (S H488)	後期後葉	—	—	3.8	底部穿孔
39			鉢	1	2433	有孔鉢	包含層	後期後葉？	—	—	4.3	底部穿孔
40	小牧南遺跡 (第2・3次)	四日市市 小牧町	椀	4	833	椀	堅穴建物 (S H169・ 324)	古墳時代前期初頭	12	5.3	—	底部穿孔
41			鉢	2	840	有孔鉢	堅穴建物 (S H169・ 324)	古墳時代前期初頭	—	—	4.4	底部穿孔
42			鉢	1	841	有孔鉢	堅穴建物 (S H169・ 324)	古墳時代前期初頭	21.9	11	4.9	底部穿孔
43			鉢	2	1002	有孔鉢	堅穴建物 (S H190)	古墳時代前期初頭	—	—	4.8	底部穿孔
44			鉢	1	1485	有孔鉢	堅穴建物 (S H230)	古墳時代前期初頭	—	—	4	底部穿孔
45			鉢	2	1547	有孔鉢	堅穴建物 (S H245)	古墳時代前期初頭	—	—	4.6	底部穿孔
46	大木ノ輪遺跡	鈴鹿市 林崎町・ 上箕田町・ 南長太町	甕	2	61	甕	包含層	古墳時代前期	—	—	5.4	底部穿孔
47			甕	3	85	甕	溝 (S D1516)	弥生時代末～古墳 時代初頭	—	—	7.3	底部穿孔

48	大木ノ輪遺跡	鈴鹿市 林崎町・ 上箕田町・ 南長太町	壺	3	140	甕	土坑 (SK1517)	弥生時代末～古墳 時代初頭	—	—	11	底部穿孔
49			甕	3	183	甕	土坑 (SK208)	弥生時代前期	—	—	7.5	底部穿孔
50			壺	4	494	壺	包含層	弥生時代前期	—	—	8.6	底部焼成後穿孔
51	深田遺跡 (第3次)	鈴鹿市 東玉垣町	鉢	2	403	鉢	壁周溝?	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	3.1	底部穿孔 13箇所
52	中島遺跡	鈴鹿市柳町	鉢	1	194	鉢	落ち込み (SZ205)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	3.2	底部穿孔
53			壺	1	479	鉢	包含層	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	5.7	底部穿孔
54			壺	1	670	鉢	包含層	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	5.2	底部焼成前穿孔
55	戸関遺跡	鈴鹿市徳田町	壺	3	112	壺	溝 (SD32)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	5.8	底部焼成後穿孔
56			鉢	3	193	壺	包含層	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	4	底部焼成後穿孔
57	橋垣内遺跡	津市 大里窪田町 字橋垣内	鉢	1	269	鉢	溝 (SD19)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	—	底部焼成前穿孔
58			壺	1	482	鉢?	旧河道 (SR3)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	—	底部焼成前穿孔
59	六大A遺跡	津市 大里窪田町 字花村	鉢	1	905	有孔鉢 か甕	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	—	底部穿孔
60			鉢	3	1211	有孔無 頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	19.6	11.6	—	底部穿孔
61			鉢	2	1494	有頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	20.5	12.7	—	底部穿孔
62			鉢	2	1501	有孔鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	3.9	底部穿孔4箇所
63			鉢	2	1691	無頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	25.8	11.7	—	底部穿孔
64			壺	4	1822	短頸 壺?	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	5.2	底部焼成後穿孔・体部外 面磨減激しく調整不明瞭
65			壺	2	2002	壺	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	5.3	底部焼成前穿孔
66			甕	2	2283	く字形 甕	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	18	17.4	—	底部穿孔
67			甕	1	2420	受口甕	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	15.1	20.6	—	底部穿孔
68			鉢	2	2526	無頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	4.7	底部穿孔
69			鉢	2	2527	無頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	14.7	14.5	—	底部穿孔
70			鉢	2	2528	無頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	19.4	16	—	底部穿孔
71			鉢	2	2529	無頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	16.8	14.7	—	底部穿孔
72			鉢	2	2530	無頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	15.8	8.2	—	底部穿孔
73			鉢	1	2599	小型無 頸鉢	大溝 (SD1)	弥生時代末～古墳 時代前期	10.8	7	—	底部穿孔
74	納所遺跡	津市納所町	甕	1	372	甕or鉢	土坑 (SK102)	弥生時代中期	—	—	—	底部穿孔
75			甕	3	648	甕	溝 (SD241)	弥生時代中期後葉	—	—	—	底部穿孔
76			甕	3	1312	甕	土坑 (SK634)	弥生時代前期	—	—	—	底部穿孔
77	式ノ坪遺跡	津市野田 字二ノ坪・ 八反田	甕	1	34	甕	溝 (SD49)	弥生時代中期中葉	23.2	26.7	6	底部穿孔・外面煤付 着
78			甕	1	55	甕	溝 (SD49)	弥生時代中期中葉	23.4	—	5.3	底部穿孔
79			甕	4	69	甕	溝 (SD79)	弥生時代中期中葉	22.2	—	5.4	底部焼成後穿孔・外 面煤付着
80			甕	1	132	甕	包含層	弥生時代中期中葉	22.5	24.2	5.8	底部穿孔・外面被熱

81	里前遺跡 (第2次)	津市野田 字里前	鉢	1	15	有孔鉢	溝 (SD51)	弥生時代末～古墳 時代初頭	—	—	5	底部焼成前穿孔
82			鉢	2	130	有孔鉢	環濠 (SZ55)	弥生時代末～古墳 時代初頭	—	—		底部焼成前穿孔
83	替田遺跡 (第1・2次)	津市南河路	甕	4	48	甕	土坑 (SK1127)	弥生時代中期中葉	—	—	4.8	底部焼成後穿孔
84			甕	3	64	甕	土坑 (SK1143)	弥生時代中期中葉	—	—	6.3	底部焼成後穿孔
85			甕	3	81	甕	土坑 (SK1210)	弥生時代中期中葉	21.8	22.9	5.2	底部焼成後穿孔
86			甕	4	95	甕	土坑 (SK1132)	弥生時代中期前葉	25.5	—	—	底部焼成後穿孔
87			甕	3	96	甕	土坑 (SK1172)	弥生時代中期前葉	—	—	6.6	底部焼成後穿孔
88			甕	3	102	甕	土坑 (SK1188)	弥生時代中期中葉	—	—	5.2	底部焼成後穿孔
89			甕	3	112	甕	土坑 (SK1209)	弥生時代中期中葉	—	—	6	底部焼成後穿孔
90			甕	3	142	甕	土坑 (SK1192)	弥生時代中期中葉	—	—	5.4	底部焼成後穿孔
91			甕	4	151	甕	Ⅲ層	弥生時代中期中葉	—	—	7.5	底部焼成後穿孔
92			甕	3	168	甕	Ⅲ層	弥生時代中期中葉	22.9	—	—	底部焼成後穿孔
93			甕	3	343	甕	柱穴	弥生時代中期中葉	—	—	7.4	底部焼成後穿孔
94			甕	1	1112	甕	土坑 (SK1210)	弥生時代中期中葉	—	—	5	底部焼成前穿孔
95			甕	2	1113	甕	土坑 (SK1210)	弥生時代中期中葉	—	—	—	底部焼成前穿孔
96	替田遺跡 (第5～8次)		甕	1	81	甕	包含層	弥生時代中期前葉	18.3	21.2	—	底部穿孔
97			甕	3	189	甕	土坑 (SK244)	弥生時代中期前葉	—	—	5.9	底部穿孔
98			甕	3	195	甕	土坑 (SK260)	弥生時代中期中葉	—	—	5.8	底部焼成後穿孔
99			甕	1	220	甕	土坑 (SK309)	弥生時代中期前葉	—	—	5.7	底部焼成後穿孔
100	惣作遺跡		津市殿村	甕	1	5	甕	土坑 (SK46)	弥生時代中期中葉	—	—	6.1
101	林垣内遺跡	津市野田	壺	1	323	鉢	溝 (SD12)	弥生時代後期～ 古墳時代前期初頭	—	—	6.3	底部焼成前穿孔
102			鉢	2	324	鉢	溝 (SD12)	弥生時代後期～ 古墳時代前期初頭	—	—	4.4	底部焼成前穿孔
103			鉢	2	325	鉢	溝 (SD12)	弥生時代後期～ 古墳時代前期初頭	—	—	4.5	底部焼成前穿孔
104			鉢	2	546	鉢	溝 (SD10)	弥生時代後期～ 古墳時代前期初頭	—	—	5.2	底部焼成前穿孔
105			鉢	2	689	鉢	土坑 (SK9)	弥生時代後期～ 古墳時代前期初頭	—	—	5.4	底部焼成前穿孔
106	雲出島貫遺跡 (第1次)	津市 雲出島貫町 字藤本・町中	壺	2	48	壺	包含層	古墳時代前期	—	—	5	底部焼成後穿孔
107			壺	1	571	壺	方形周溝墓 (SD54)	古墳時代前期	12.6	16.8	—	口縁部～体部赤彩 底部焼成後穿孔→研磨
108	雲出島貫遺跡 (第3次)		甕	4	277	台付甕	落ち込み (SZ575)	古墳時代前期	—	—	—	底部焼成後穿孔
109			甕	4	370	甕	堅穴建物 (SH569)	弥生時代中期前葉	—	—	5.5	底部焼成後穿孔
110			甕	1	373	甕	包含層	弥生時代	—	—	7	底部焼成前穿孔
111	山室遺跡 (第2次)	津市	鉢	2	270	甕	土坑 (SK52)	弥生時代後期～ 終末期	—	—	—	底部焼成前穿孔
112	鳥居本（八反田） 遺跡	津市一志町 小山・新沢田	甕	1	63	甕？ 鉢？	土坑 (SK23)	弥生時代中期	—	—	—	底部焼成前穿孔
113	鳥居本遺跡 (第4次)		鉢	4	5	鉢	土坑 (SK412)	弥生時代中期後半	19.1	14.6	—	底部焼成後穿孔・内 面から穿孔

114	上ノ庄北出遺跡	松阪市上ノ庄町 字北出	鉢	2	138	鉢or甕	包含層	弥生時代後期	—	—	4	底部穿孔
115	中ノ庄遺跡	松阪市 中ノ庄町 字古城	壺	4	26	壺		弥生時代前期	—	—	—	底部焼成後穿孔・外 面から穿孔
116			甕	1	45	甕	溝 (S D14)	弥生時代前期	—	—	—	底部穿孔
117	貝塚遺跡	松阪市	甕	1	55	小型有 孔鉢	土坑 (S K3)	弥生時代後期後半	—	—	—	底部穿孔
118			甕	4	56	小型有 孔鉢	土坑 (S K3)	弥生時代後期後半	—	—	—	底部穿孔
119	天花寺城跡・ 小谷赤坂遺跡・ 小谷古墳群 (第8次)	松阪市 嬉野天花寺町 字小谷・赤坂	甕	1	40	甕	土坑 (S K463)	弥生時代前期	—	—	5.8	底部焼成前穿孔
120			甕	4	41	甕	包含層	弥生時代前期	—	—	6.8	底部焼成前穿孔
121			甕	1	123	甕	土坑 (S K486)	弥生時代後期前半	—	—	4.2	底部焼成前穿孔・外 面煤付着
122	阿形遺跡	松阪市阿形町	鉢	2	20	鉢	環濠 (S D36)	弥生時代後期	18	17.7	5	底部穿孔
123			鉢	2	71	鉢	環濠 (S D95)	弥生時代後期	—	—	2.5	底部穿孔
124			鉢	4	72	鉢	環濠 (S D95)	弥生時代後期	—	—	3	底部穿孔・黒斑
125			鉢	1	232	鉢	環濠 (S D103)	弥生時代後期	22.8	13.2	4.8	底部穿孔
126	阿形遺跡	松阪市阿形町	鉢	2	233	鉢	環濠 (S D103)	弥生時代後期	19.4	15.2	4.8	底部穿孔
127			鉢	4	234	鉢	環濠 (S D103)	弥生時代後期	—	—	4.3	底部穿孔
128			鉢	2	235	鉢	環濠 (S D103)	弥生時代後期	13.5	9.9	4.8	底部穿孔・外面煤付 着
129			鉢	2	236	鉢	環濠 (S D103)	弥生時代後期	13.8	11.2	4.6	底部穿孔
130			鉢	2	237	鉢	環濠 (S D103)	弥生時代後期	15.3	13.3	3.5	底部穿孔
131			鉢	2	238	鉢	環濠 (S D103)	弥生時代後期	15.6	13.5	3.6	底部穿孔・6個所
132	堀町遺跡	松阪市朝田町 字堀町	甕	4	233	甕	土坑 (S K326)	弥生時代後期前半	17.2	20.2	5.2	底部穿孔
133			鉢	1	350	鉢	土坑 (S K410)	弥生時代後期前半	17.5	15.2	4	底部穿孔・口縁把手 2個所
134			鉢	2	549	鉢	環濠 (S D303)	弥生時代後期前半	13.6	11	2.5	底部穿孔・両面黒斑
135	村竹コノ遺跡	松阪市上川町 村竹・コノ・ 廿子	鉢	1	50	鉢	環濠 (S D202)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	4.0～ 5.0	底部焼成前穿孔
136			鉢	1	250	鉢	環濠 (S D282)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	4	底部穿孔・底部黒変
137			甕	1	529	甕	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	17.8	18.9	6	底部穿孔・外面黒斑
138			鉢	2	535	鉢?	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	5	底部複数個所穿孔
139			鉢	1	551	鉢	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	18.2	14.3	5	底部穿孔
140			鉢	1	778	甕?	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	5.7	底部穿孔
141			甕	3	876	甕?	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	20.8	18.7	5.6	底部穿孔・外面黒変
142			甕	3	881	台付 鉢?	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	17.6	—	—	底部穿孔
143			壺	4	1009	脚付壺	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	11.7	—	—	底部穿孔?
144			鉢	1	1222	鉢	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	5.7	底部穿孔・外面煤付 着
145			鉢	1	1223	鉢	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	4.5	底部穿孔・外面黒変
146			鉢	1	1224	鉢?	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	5.0～ 5.4	底部穿孔

147	村竹コノ遺跡	松阪市上川町 村竹・コノ・ 廿子	壺	4	1225	壺？	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	6.1	底部穿孔
148			壺	2	1226	壺？	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	5.3	底部穿孔
149			鉢	1	1227	鉢	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	3.5	底部穿孔・外面黒斑
150			鉢	1	1228	壺？	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	4.4	底部穿孔
151			壺	1	1349	壺	環濠 (S D745)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	5.5	底部穿孔
152			鉢	1	1887	鉢	井戸 (S E615)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	4.8	底部穿孔
153			壺	2	1888	壺	井戸 (S E615)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	7.6	底部穿孔
154			鉢	2	2032	鉢	不整形土坑 (S Z428)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	4.3	底部穿孔
155			鉢	1	2033	鉢	不整形土坑 (S Z428)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	4.7	底部穿孔
156			鉢	1	2071	鉢	環濠 (S D301)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	—	—	5.5	底部穿孔
157	寺垣内遺跡	多気郡明和町 金剛坂	甕	2	73	甕	方形周溝墓 (S X204)	弥生時代後期後半				底部穿孔
158			鉢	1	94	鉢	方形周溝墓 (S X223)	弥生時代後期前半	25.4	14.8	5.5	底部穿孔・内外面黒 斑
159	金剛坂遺跡 (第4次)	多気郡明和町 金剛坂	甕	3	1	甕	堅穴建物 (S H1)	弥生時代前期	28	—	7.8	底部焼成後穿孔・外面煤 付着・内面炭化物付着
160			甕	4	86	甕	古墳 (S X13)	弥生時代前期	—	—	6.6	底部焼成後穿孔
161			甕	4	108	甕	古墳 (S X13)	弥生時代前期	—	—	7.2	底部焼成後穿孔
162			甕	4	120	甕	古墳 (S X13)	弥生時代前期	—	—	8	底部焼成後穿孔
163			甕	4	243	甕	古墳 (S X49)	弥生時代前期	—	—	9	底部焼成後穿孔
164	北野遺跡 (第3次)	多気郡明和町養 村・明星・本郷	甕	4	203	壺	堅穴建物 (S H3077)	弥生時代後期後半	—	—		底部焼成後穿孔10 個所
165	上ノ垣外遺跡	多気郡多気町 上ノ垣外字巢護	壺	4	38	壺	ピット	弥生時代後期	13.4	22.5	6.2	底部穿孔・外面煤付 着
166	印代東方遺跡群	伊賀市印代東 方	甕	1	39	甕	堅穴建物 (S B3)	弥生時代後期	—	—	3	底部穿孔・外面黒斑
167	神部遺跡	伊賀市笠部	鉢	2	35	鉢	流路	古墳時代前期	20.3	—	1.9	底部穿孔
168	北切遺跡	伊賀市大山田	壺	3	7	壺	方形周溝墓 (S X1)	弥生時代中期中葉 ～後葉	—	—	—	底部焼成後穿孔 ・外面から穿孔
169	上東野遺跡	名張市赤目町	甕	2	30	甕	堅穴建物 (S B11)	弥生時代後期～古 墳時代初頭	15.2	9.8	—	底部焼成前穿孔
170	観音寺遺跡	名張市中村	鉢	2	28	有孔鉢	方形周溝墓 (S X29)	弥生時代後期	—	—	—	底部焼成前穿孔
171			鉢	2	64	有孔鉢	堅穴建物 (S B1)	弥生時代後期	—	—	4.3	底部焼成前穿孔

第2表 底部・体部穿孔土器一覧表

番号	遺跡名	所在地	器種	分類	報告書 番号	報告書 器種	出土遺構	時期	計測値			備考
									口径	器高	その他	
172	六大A遺跡	津市 大里窪田町 字花村	甕	3	2260	く字形甕	大溝 (S D1)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	—	体部焼成後穿孔・体部外 面煤付着
173			鉢	4	2531	有頸鉢	大溝 (S D1)	弥生時代末～古墳 時代前期	—	—	5.5	体部焼成後に円窓状穿 孔・底部有孔
174	天花寺城跡・小谷赤 坂遺跡・小谷古墳群 (第6・7次)	松阪市嬉野天花寺 町字小谷・赤坂	壺	4	123	壺	方形周溝墓 (S X386)	弥生時代後期前半	11.2	27.1	6	底部・体部焼成後穿孔・ 外面煤付着
175	北切遺跡	伊賀市大山田	壺	4	1	壺	方形周溝墓 (S X1)	弥生時代中期中葉 ～後葉	—	—	—	体部・底部焼成後穿孔 外面から穿孔

第7図 底部穿孔土器類例図

